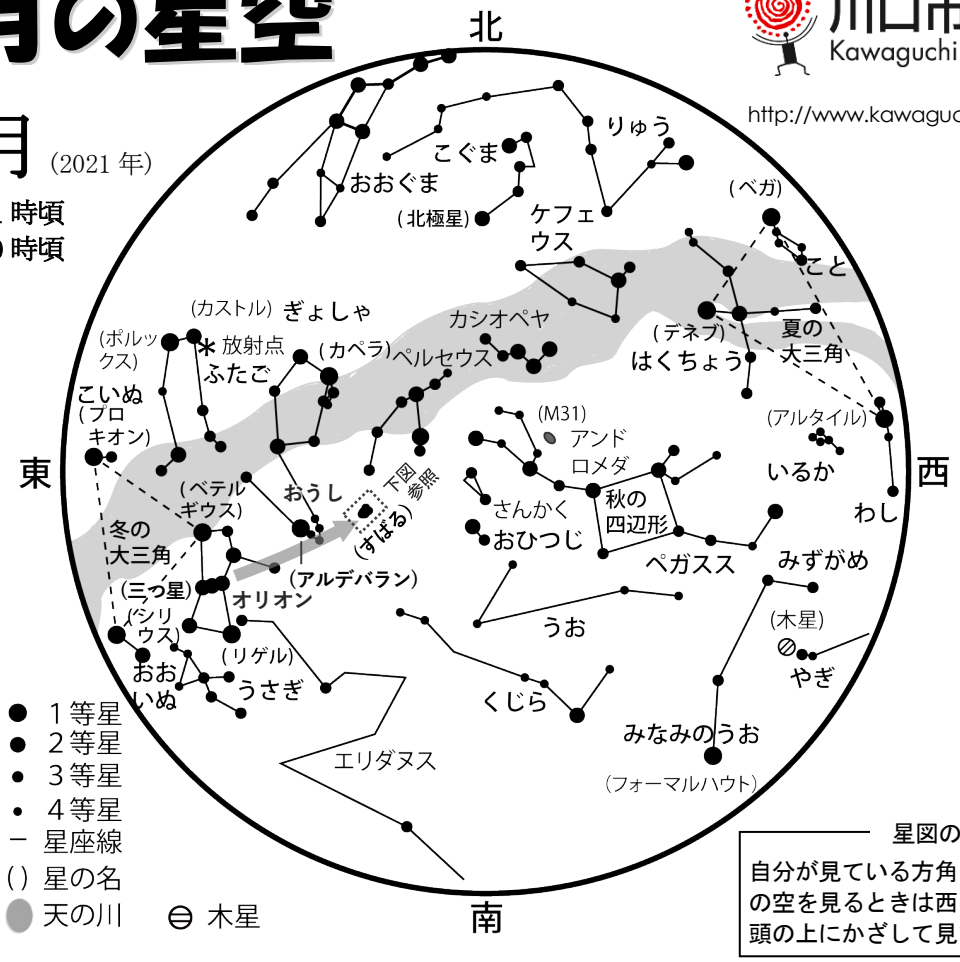
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum

12 月 (2021 年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ)頭の上にかざして見ます。

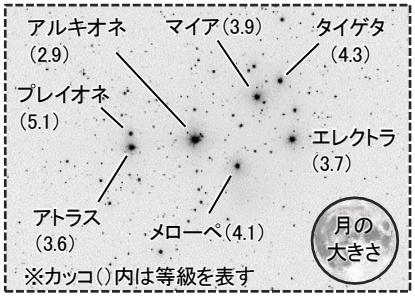
月　　齢　●新月 4 日、◐上弦 11 日、○満月 19 日、◑下弦 27 日
惑星情報　金星　夕方　南西(いて座　ー5→ー4 等)
　　木星　夜のはじめ頃　南西(やぎ→みずがめ座　ー2 等)　土星　夕方　南西(やぎ座　1 等)

☆宵空にそろう 3 惑星とプレアデス星団「すばる」を見てみよう

夏から秋にかけて南の空で並ぶように輝き、夜空を賑わしてきた木星と土星が少しずつ西へ移り、南西の空で輝く金星に近づいてきました。中旬頃、日没後の南西の空には、金星－土星－木星がほぼ同じ間隔で並ぶ様子が見られるでしょう。これらの惑星たちは太陽（の方向）に近づいていくため、今後は観測しづらくなります。その一方で、東の空にはオリオン座などの明るい星が多い冬の星座が見られるようになりました。

注目は、おうし座のプレアデス星団（M45）です。空の暗いところでは、肉眼で 5～7 個の星が集まって見えます。日本では、ひとつにまとまるという意味の「統(す)べる」から「すばる」と呼ばれてきました。右図のとおり、星団の広がりは月よりも大きく、2.9 等のアルキオネをはじめ、3～4 等ほどの星もあるため、市街地でも条件が良ければ、単独の恒星とは異なる広がりのある様子がわかります。上の星図のように、オリオン座の三つ星の延長線上を目安に見つけてみましょう。

プレアデス星団(M45/すばる)



画像提供:国立天文台

約 410 光年の距離に 130 ほどの星が集まった散開星団。誕生から約 1 億年ほど経った青白い星々からなる。望遠鏡よりも視野の広い双眼鏡での観察がおすすめ。

☆14 日　三大流星群のひとつ、ふたご座流星群が極大

夏のペルセウス座流星群に匹敵する流星数を誇るふたご座流星群が 14 日 16 時頃に極大を迎えます。観察に適した日は、13 日と 14 日の夜（翌日の明け方まで）です。観察時刻については、一般に放射点※が高く昇っている時間帯がおすすめです。ふたご座流星群の場合、放射点の高度が約 20 度の 20 時（星図の＊印の位置）よりも 22 時（高度約 45 度）、さらに 1 時台（最大高度となる約 85 度）の方が条件が良くなります。空の十分暗い場所でなくても、空が広く見渡せる安全な場所で観察してみましょう。

※放射点…流星群の流れ星は、放射点を中心に四方八方に流れるため、放射点が高いほど観察できる数が多くなる。また、放射点の近くでは軌跡の短い流れ星、離れた所では軌跡の長い流れ星が多い。